

## 2023年度事業報告書

### はじめに

美ヶ丘敬楽荘では、生活圏域に応じた地域包括ケアシステム構築を目指し、地域住民が年齢を重ねて介護が必要になっても住み慣れた地域でいつまでも暮らし続けることができるよう日々、取り組んでいます。

今年度、入居者様の入院日数増大による稼働率低下が起因し、当初見込んでいた収入を確保することができませんでしたが、短期入所生活介護の利用者様が長期入居に移行するケースが多くなっており、在宅サービスから入居まで網羅する複合拠点としての機能を再認識しています。

今後も入居者さんが健やかに暮らし続けることができるよう、トータルケアプログラムで習得した知識・技術をいかして日々の体調管理を徹底し、継続したケースカンファレンスを実践していくことで安定した稼働率確保に努めていきます。

必要な人材確保困難により、職員一人ひとりの負担が大きくなってしまいう状況が続き、大きな課題となっています。まずは、必要な人材確保に努めるとともに働きやすい職場環境をつくるため、風通しが良いチームづくりを行い、各リーダーが中心となって柔軟な取り組みを実践していきます。

また、新採用職員がスムーズに職場環境に馴染むことができるよう先輩職員によるエルダー制度のもと、新規採用職員が困ることがないようにしっかりとサポートを行っていきます。

2022年9月にフィリピンより外国人介護人材（特定技能1号）を2名美ヶ丘敬楽荘で受け入れ、早いもので1年半が経とうとしています。現在は、夜勤業務を担うまで知識・技術を習得し、独り立ちできる見込みにまで成長し大きな戦力となっています。

これから必要な介護人材確保が更に難しくなることが推測されるため、早い段階で外国人介護人材2期生受け入れを準備し、必要な人材確保に努めていきます。

美ヶ丘敬楽荘では、トータルケアプログラムで学んだ知識や技術を中心に継続して施設内研修として「基礎介護研修」を行ってきました。入居者様に関わる職員が皆で研鑽を深めることで、ともにレベルアップを図ることができました。

今年度、介護職員初任者研修の講師として大野農業高等学校への職員派遣とともに新たに北斗支援学校2年生・3年生を対象に移動・移乗介助を中心に講師をする機会を持つことができた。はじめて介護に関して学ぶ学生と交流することはとても良い刺激になったと思っています。

これからも地域に必要な人材育成の一助となれるよう、美ヶ丘敬楽荘での取り組みを地域へPRできる機会の確保に努めていきます。

今年度、地域にあるかかりつけ医を中心に協力医療機関と連携して医療・介護連携に努めてきました。特に、人生の最終ステージであります「看取り介護」では、入居者様個々の状況に応じてご本人・ご家族が安心できるよう迅速な支援を行って来ました。今後も、ますます医療・介護連携、施設内看取り介護の必要性は増してくる中、チームとしてしっかり対応できるよう努めていきます。

美ヶ丘敬楽荘は個々の入居者様の健康維持と生活の充実を目指し、多職種連携のもと取り組んできましたが、入院日数の増大のため年間平均利用率は94.2%と当初の目標には及びませんでした。

来年度は、入居者さんの健康管理と必要に応じたケースカンファレンスの迅速な開催を通して、入居者様が健やかに生活を継続できよう取り組んでいきます。

短期入所生活介護「美ヶ丘敬楽荘」では、長期に利用いただけるリピーターの確保、空床利用の活用を推進した結果、年間平均利用率87.9%と当初目標を上回ることができました。

次年度には、介護保険制度をはじめ医療、障害に関する制度改正を控えています。今後、ますます施設経営が厳しさを増す中、美ヶ丘敬楽荘拠点・美ヶ丘敬楽荘せせらぎの家拠点という高齢者部門全体が持続できることを目指して、高齢者部門総務課を含め一体的な運営体制を構築していきます。

それぞれが培ってきた良いところをお互いに認め合い、足りないところは補い合いながら、地域に必要とされる身近な拠点施設となれるよう努めてまいります。

2024年3月31日

特別養護老人ホーム美ヶ丘敬楽荘  
施設長 加藤 秀隆

## 2023年度事業報告書

### はじめに

美ヶ丘敬楽荘デイサービスセンターは、くもん学習療法や脳トレの実施による『頭の活性化』、レッドコードやマシンを使用した機能訓練やリズム体操等による『体の活性化』、様々なアクティビティや作り物、外出行事や豊富な行事食

による『心の活性化』を念頭に置き、基本方針及び重点目標に沿いながら事業所運営を実施してまいりましたが、平均利用率は目標90%に対し、結果84.0%と目標を下回る結果となってしまいました。

主な要因として、年間新規登録者19名に対し、医療機関への入院、施設入所、死亡等が原因による利用廃止者が33名と大幅に上回ってしまったことが考えられます。

新規利用者獲得のため、毎月発行の広報誌「デイたより」を発行するとともに居宅介護支援事業所へ利用者空き情報をお知らせしてまいりましたが、大きな成果には結びつきませんでした。

改めて春の活動シーズンに合わせ、2024年2月頃より、事業所の取り組みや特色をお知らせする広報計画を開始し、新規登録者の獲得に力を入れてまいりました。開始後間もなくして、数件の体験利用の申し込みや相談があり、4月以降の新規契約者も決定しました。

次年度も広報計画を継続するとともに、新規利用者の獲得や現利用者様の満足度向上ため、様々な取り組みを考えてまいります。特に、今年度実施できなかった利用者満足度調査を実施し、現利用者様の要望を改めて確認し、サービスの向上に柔軟に活かすことができるよう取り組んでまいります。

また、送迎サービス向上のため重点目標に挙げておりました送迎ワゴンの更新を一般社団法人函館馬主協会様から助成金をいただいて実施することができ、利用者様に快適で安全な送迎を提供することができております。

次年度も『頭と体と心の活性化』に効果のある取り組みを推進し、楽しくて居心地の良いデイサービスセンター、利用者様の在宅生活を支えるデイサービスセンターを目指してまいります。

北斗市総合事業基準緩和型サービスAとして実施してまいりました生きがいデイサービスは、新型コロナウイルス感染症の5類移行後、徐々に外出行事を再開することができました。

外出制限中もセンター内を中心とした筋力アップ体操等は継続してまいりましたが、数年間外出を自粛してきたこともあってか、ご利用者様の筋力の低下は否めず、改めて運動の重要性を痛感した年でもありました。

次年度も、生活リハビリを取り入れた外出行事や買い物行事等、楽しみを持ちながら介護予防ができる生きがいデイならではの取り組みを継続していきたいと考えております。

また、年間平均利用率目標70%を目指し、現利用者様からのご意見をいただきながら、サービスプログラムの見直しや広報誌「生きがいだより」を発行し、地域や関係機関に対し「生きがいデイ」の取り組みを発信してまいりました。結果は65.0%と目標を達成することができませんでしたが、2月は7

1. 8%と目標を上回ることができましたので、この利用率を維持できるよう取り組んでまいります。

次年度もご利用者の生きがいづくりと健康づくりのため、美ヶ丘敬楽荘デイサービスセンターをはじめ、各関係機関の協力を賜りながら、総合相談窓口機能の充実と自立支援の取り組みを進め、ご利用者様とご家族様に安心してご利用いただける生きがいデイサービスセンターを目指してまいります。

2024年3月31日

美ヶ丘敬楽荘デイサービスセンター  
統括主任生活相談員 福地 寛己

## 2023年度事業報告書

### はじめに

2023年5月に新型コロナウイルス感染症が5類に移行後も基本的な感染予防対策を継続していましたが、8月下旬から9月上旬にかけて主に2階の2ユニットにおいてクラスターが発生し、利用者15名、職員15名が感染しました。2024年度においても必要な感染症対策を実施し、新型コロナだけではなく他の感染症に対しても拡大防止を図ってまいります。

また、2023年度は入院する入居者が比較的多かったこと、入院期間も1ヶ月以上の長期となる方が多かったこと、入退居に伴う空床が多かったことにより、利用率が目標を大きく下回ってしまいました。

入院日数は、直近3ヶ年の平均が208日に対し、2023年度は616日でした。入退居に伴う空床も直近3ヶ年の平均が11.7日に対し、2023年度は100日でした。例年は、ゆとりショートステイから入居になる方が多かったため空床日数が少なくなっていました。2023年度は医療機関等外部から入居した方が多く、また、退院日が変更になることもあったため、入居までに時間を要してしまいました。

2024年度においては、入居者の状態把握について基本的なことを丁寧に確認する取り組みを強化し、入院に至る前の予防的ケアの実施及び早期受診を徹底することを更に進めてまいります。また、入退居に伴う空床日数についても、医療機関等外部からの入居希望者をショートステイで受け入れていくなどして、可能な限り空床日数が多くならないよう対応してまいります。

採用から1年半経過したフィリピン人介護スタッフは、日本での生活にも慣れてきて、プライベートを楽しんでいる様子がうかがえます。また、仕事の面においても、ゆとり配属の2名は夜勤シフトに一人で入るところまであと一歩というところにきており、2024年度のできるだけ早い段階で夜勤シフトにも入れるよう今後もサポートしてまいります。

2023年度事業計画の基本方針及び重点目標への取組み実績は以下のとおりです。

#### (1) 基本理念及び目指すべき姿の実現を図る

2022年度と同様、2023年度においても、5月にゆとり全体会議を開催し、全職員にゆとりの目指すべき姿、また、施設長として大事にしたいことを伝え、共通認識を持って同じ方向に向かっていくためのスタートを切りました。

この会議において、ケアの方向性、求める職員像、4級格付けのスタッフに求める役割、特に、感情コントロールを含む職場における心理的安全性を意識してほしいことを伝えました。

朝礼及びユニット会議での基本理念の唱和も継続して実施しました。基本理念の浸透と基本理念を意識したケアの実現に引き続き取り組んでいきたいと思えます。

この他、ご家族との対面面会、ゆとり全体行事として実施した夏まつりや日常的なレクリエーションの実施など、ご利用者の笑顔ある暮らしづくりに取り組みました。

一方で、社会人としての常識とマナーを重視したルール作りや研修には取り組むことができず、引き続き次年度の課題としたいと思えます。

#### (2) トータルケア・プログラムの推進

トータルケアを中心としたケアの確立を図るため、職員による基礎介護研修の実施、全国高齢者ケア研究会や北海道老人福祉施設協議会が主催するトータルケアに関するオンライン研修への参加、担当利用者の認知症カンファレンスシートの作成など、役職者を中心とした第1段階から、スタッフへの浸透を図る第2段階への移行の取り組みを進めることができました。

2024年度も引き続きトータルケア・プログラムの推進に取り組み、役職者にはトータルケアの理解及び知識・技術の深化を、スタッフにはトータルケアの理解・浸透を進めてまいります。

#### (3) 職員の定着及び育成

2023年度は、高校卒業者を含む2名の介護職員と1名の看護職員を採用し、新任職員研修とエルダー制度に基づくサポートを行い、採用した職員が定着できるよう取り組みました。2名の介護職員はエルダーによるサポートを受けながら継続勤務しています。2023年4月に採用した新規学卒者は、8

月中旬から夜勤の練習を始め、途中、新型コロナのクラスター発生により一時中断しましたが、10月下旬から一人で夜勤に入れるようになりました。今後は育成に向けてサポートを継続してまいります。

また、働きやすい職場環境の構築を目指して取り組んだ6連休取得は、年次有給休暇が付与された介護職員全員が取得することができました。2024年度は介護職員の連休日数をもう1日増やして7連休取得に取り組めます。他の職種についても5連休以上の取得を目指します。

#### (4) コンプライアンスの強化と施設事業運営の安定化

特養の年間平均利用率の目標を98%と設定し、多職種協働で入居者の健康管理に努めましたが、入院者及び入院日数の増加、入退居に伴う空床日数の増加により、年間平均利用率は93.3%でした。2024年度に向けて改善の兆しは見ており、第4四半期の各月利用率は97.4%、97.4%、99.0%でした。2024年4月以降もこの利用率を維持できるよう取り組んでまいります。

また、2023年度において、8名の介護職員が喀痰吸引等研修を受講し、夜勤職員配置加算の上位加算を算定できるようになったこと、併せて感染症等により看護職員不在となった場合のリスク回避の体制をとることができたことは、施設事業運営の安定化につながるものと考えています。

短期入所生活介護については、年間平均利用率の目標を85%と設定し、中・重度の利用者の受入れも進めてきましたが、特養入居に移行になる方や入院する方が比較的多かったため、年間平均利用率は74.15%でした。2024年度は、入居待機者の確保という観点からも積極的に利用者を受け入れ、利用率の目標達成を目指してまいります。

災害対策・防災対策の面では、交付金を活用した非常用自家発電設備の整備が完了しました。使用方法を関係職員に周知し、万々に備えてまいります。一方で、避難訓練が実施できなかったこと、運営推進会議が開催できなかったことは大きな反省点であり、次年度の早期実施に取り組んでまいります。

2024年3月31日

地域密着型特別養護老人ホーム  
美ヶ丘敬楽荘せせらぎの家ゆとり  
短期入所生活介護 美ヶ丘敬楽荘  
施設長 伊藤 巧

## 2023年度事業報告書

### はじめに

2023年5月に新型コロナウイルス感染症が5類に移行後も利用者及び職員に数名の感染者がでましたが、感染拡大には至らず、必要な感染対策を取りながら、ほぼ通常の事業運営に戻ることができました。

コロナ禍において控えていた外出も4月から10月まで毎月実施し、1月には意富比神社に初詣にも行きました。

また、外部からのボランティアにも来ていただき、9月は敬老会において津軽三味線の演奏、10月にご利用者家族による篠笛演奏、12月はクリスマス会に以前から交流のある白石親子に来ていただき、民謡と三味線・太鼓演奏を楽しみました。

食事の提供についても、7月のきずな開設記念日に握り寿司の実演・実食、12月には魚の解体ショーを行い、海鮮丼を楽しみました。

事業所運営においては、小規模多機能型居宅介護事業の役割を果たすべく、関係機関や法人内他事業所からの依頼による多様な利用者の受け入れなど、可能な限り利用者の在宅生活を支援する取り組みに努めてまいりました。

近年の傾向として、訪問サービスから利用開始し、時間をかけて信頼関係を築きながら通所サービスの利用につなげていくケースが出てきています。このことに伴い、訪問サービスの提供回数が大幅に増えましたが、このようなケースにも対応することにより利用登録者数は10月から目標の25名以上を達成し、2月と3月は27名になりました。

また、トータルケアに関する研修のほか介護力のレベルアップを図る研修にも参加することができました。

2024年度においても小規模多機能型居宅介護事業の役割を念頭に、ますます多様化するニーズに応えながら、様々な事情を有する利用者の在宅生活を支援できるよう取り組んでまいります。

2023年度事業計画の基本方針及び重点目標への取り組み実績は以下のとおりです。

#### (1) 利用登録者の安定的確保を図る

多様な利用者を受け入れ、一人一人のニーズを踏まえた柔軟なサービス提供に努めるとともに、関係機関との連携を強化し、利用登録者の安定的確保に努めました。

トータルケアの導入にあたり、全国高齢者ケア研究会や北海道老人福祉施設協議会が主催するトータルケアに関するオンライン研修に1名ずつ参加することができました。また、認知症介護実践者及び管理者研修にも1名ず

つ参加することができ、介護力のレベルアップにつながる取り組みを進めることができました。

きずな職員会議におけるケースカンファレンスも1年を通して継続し、ケアの統一に努めました。

2024年度もこれらの取り組みを継続して実施し、利用登録者の安定的確保につなげてまいります。

## (2) 安定的にサービスを提供する

様々な状態像と多様なニーズに応えるため、また、安定的にサービスを提供するため、2023年度に3名の介護職員を採用しました。新任職員研修とエルダー制度に基づくサポートを行い、採用した職員が定着できるよう取り組み、3名全員が継続勤務しています。

また、きずなにおいても5連休取得に取り組んでいますが、全職員の取得には至らなかったため、働きやすい職場環境の構築を目指して2024年度も引き続き取り組んでまいります。

## (3) コンプライアンスの強化と事業運営の安定化

事業運営の安定化のため、年間平均登録者数の目標を25名以上として取り組んできましたが、年間平均としては24.8名でした。下半期の平均は25.8名と目標に届いているので、2024年度は年間平均で目標を達成できるよう取り組んでまいります。

また、外部ボランティアの受入れや地域との交流など、気軽に立ち寄れる開かれた事業所への取り組みを徐々に進めることができました。2024年度は加算の要件としても位置付けられたため、より一層開かれた事業所への取り組みを進めてまいります。

災害対策・防災対策の面では、交付金を活用した非常用自家発電設備の整備が完了しました。使用方法を関係職員に周知し、万々に備えてまいります。一方で、避難訓練が実施できなかったこと、運営推進会議が開催できなかったことは大きな反省点であり、次年度の早期実施に取り組んでまいります。

2024年3月31日

小規模多機能型居宅介護  
美ヶ丘敬楽荘せせらぎの家きずな  
代表者 伊藤 巧



## 2023年度事業報告書

### はじめに

2023年度、美ヶ丘ケアプランセンターは新型コロナウイルスの感染症分類が5類へ移行となったことに伴い、引き続き感染対策に努めつつも、これまで制限されてきた、医療機関やサービス事業所での利用者様との面会を増やしてきました。利用者様の状況や抱える課題についてよりの確に把握することにつながり、利用者様、ご家族にとって満足度の高い支援につながるよう、また、地域における総合相談窓口としての役割を果たすべく日々の業務に取り組んで参りました。

また、部署内の介護支援専門員4名全員が主任介護支援専門員という体制を活かし、北斗市役所や北斗市地域包括支援センターからの困難ケース担当依頼や、医療機関、地域住民の皆様からの相談を積極的に受け入れることにより事業所の信用構築に努めて参りました。実際のサービス調整においては、紹介先を特定の事業所に偏ることなく、あくまで利用者様個々の課題解決に適した事業所を紹介することを徹底し、各関係機関が同じ方向性で利用者様の支援にあたってきたことで、多くのサービス事業所と良好な関係を構築することができました。北斗市役所や北斗市地域包括支援センターとは、利用者様の処遇に関して直接連携しながら対応にあたったケースもありました。特にご家族からの虐待が疑われるケースや、同居家族への支援が必要なケースにおいて、介護支援専門員単独で対応するのではなく、市役所担当課、包括支援センター担当者との情報共有したり同行訪問で対応にあたるなどした結果、当該利用者様の住み替えにより解決ができたケース、同居家族に対して支援の手が届いたケースがありました。日々高齢者の支援に関わっていると、多くの世帯でそれぞれ抱える背景が年々複雑化してきている印象があります。今後も多くの関係機関や地域住民の皆様との連携を強化し協力をいただきながら、各利用者様の支援にあたっていく必要があると感じた1年でありました。

職員のスキルアップについては、オンライン研修や対面研修への参加を中心に取り組みました。特に高齢者虐待や特殊詐欺についての研修では、高齢者と直接関わる職種である介護支援専門員が重要な役割を果たすことを再確認できました。他法人との合同事例検討会も再開し、利用者様との関りについて多くの視点から意見をいただいたり、他事業所の介護支援専門員の取り組み方などを勉強するよい機会となりました。また、2名の職員が主任介護支援専門員更新研修を受講し、あらためて主任介護支援専門員には人材育成と地域作りが職務として求められること、それらを実践していくための考え方や方法論を学ぶことができ、主任介護支援専門員として必要な知識や考え方を深めることがで

きました。次年度も引き続き多くの研修への参加や企画によりスキルアップを図っていきたいと考えています。

事業所における収入増への取り組みについては、今年度も北斗市役所、北斗市地域包括支援センター、各事業所や地域住民からの相談を確実にサービス利用に結び付けることで、担当件数の増加を目指して参りました。実際の請求件数は、事業所の目標として設定した135件を多くの月で達成でき、最大で148件、年間平均で137.2件の請求件数を達成することができました。また、認定調査の受託件数も130件と、前年の75件から大幅な増加という結果も得られました。しかし、年間の新規契約件数が42件に対し廃止件数は52件と、この数年で最多となる利用廃止数となったことが影響し、最終的には契約利用者数が減少するという結果となりました。中でも契約期間中に11名の利用者様が逝去され、28名もの利用者様が施設へ入所されたことが大きな要因となり、特に12月以降は135件を下回る月が続きました。次年度は契約利用者数が減少した状態からのスタートとなりますが、安定した事業運営を目指し目標件数を引き続き年間平均135件に設定し、4名全員で新規利用者獲得に努めます。

次年度も引き続き複合的地域拠点の総合相談窓口としての役割を担いながら、適切なケアマネジメントを提供し、要介護高齢者やご家族が、住み慣れた地域で安心して在宅生活が続けられるよう努めて参ります。関係機関との連携や各サービス事業所、地域住民の皆様とのつながりも一層強化し、担当件数の増加、利用者様の満足度向上に取り組んで参ります。

2024年3月31日

居宅介護支援事業所「美ヶ丘ケアプランセンター」  
美ヶ丘在宅介護支援センター  
管理者 池田美幸

## 2023年度事業報告書

### はじめに

ふれあい食堂いこいは、地域包括ケアシステムの拠点を目指して2015年2月18日にオープンしてから丸9年が経過しました。

ふれあい食堂いこいの活動に共感していただいた、地域住民による調理ボランティア等をはじめ、本郷町内会、北斗市食生活改善協議会、北海道教育大学

函館校、大野小学校など様々な団体と協同した活動を展開し、一般介護予防や地域ニーズ解決のためのネットワークができました。

今年度はコロナウィルス感染拡大以前の利用者数に戻りつつあり、延べ5千人を超える方々に利用していただきました。地域の方々が遠方の友人を誘い函館市や七飯町から来店されるお客様もいます。皆さん口をそろえ「私の地域にもこんなところあればいいのに」と話されます。どの地域においても、人との繋がりを持って安心した生活を送れることを願っていることを改めて感じました。今後も集いやすく、過ごしやすい場所を地域の方々、ボランティアさんと共に提供していきます。

人は見えないことや知らないことに恐怖を感じます。いこいのような地域拠点を利用し地域の方々と顔を合わせ、お互いを知り、お互いに関心を持ち合うことで互助が生まれると考えております。

ふれあい食堂いこいは人と人が通るボタンホールのような存在でありたいと思います。そして、ボタンホールを通った後にネットワークより穏やかに柔軟な繋がりをもつネットワークへ変化し拡張的に進んでいくよう事業を展開していきたいと思っております。

2024年3月31日

ふれあい食堂いこい  
地域連携室相談員  
副主任 工藤 公洋